

2003 年度 国際ユース作文コンテスト受賞者

参加国数：109 カ国

応募総数：5254 作品（子どもの部 3219 作品、若者の部 2035 作品）

文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）（各 1 点）

<子どもの部>

- 『魂について』
テオドラ・ミホック（ルーマニア）15 歳

<若者の部>

- 『平穏な生活』
ミランティ・ダニアル（インドネシア）19 歳

優秀賞（各 2 点）

<子どもの部>

- 『私の未来の夢』
ミリセント・ボア・アンポンセン
（米国）14 歳
- 『未来への願い』
今井 絢（日本<英国在住>）14 歳

<若者の部>

- 『愛がすべて』
チャンダ・ムタレ（ザンビア）17 歳
- 『希望のマントラ』
キャサリン・ローズ・トレス
（フィリピン）23 歳

入選（各 5 点）

<子どもの部>

- 山崎 康正（東京都）13 歳
- 加賀野井 薫（東京都）14 歳
- フィーラス・ズハイル・アルナサール
（クウェート）10 歳
- ダーシャ・ネムチノヴァ（ウクライナ）14 歳
- ギデオン・アモアコ・サルボン（ガーナ）15 歳

<若者の部>

- ガブリエル・ロドリゲス・デ・カンポス
（ポルトガル）17 歳
- ティナティン・ツェレテリ（グルジア）18 歳
- ヴィクトリア・ボルコヴァ（ウクライナ）20 歳
- ヴェスパー・フェ・マリー・ジャンサ・ラモス
（フィリピン）20 歳
- ヴァネッサ・アン・C・レモキージョ
（フィリピン）22 歳

佳作（各 25 点）

<子どもの部>

- 東野 愛（インドネシア）8 歳
- 長谷川 萌（東京都）9 歳
- グロリア・エステージャ・オレゴ・シフエンテス
（コロンビア）10 歳
- アリーシャ・シン（インド）11 歳
- ガブリエール・ローズ・フェリオ（カナダ）11 歳

<若者の部>

- インナ・オメリューク（ウクライナ）15 歳
- 篠崎 まりな（東京都）15 歳
- アンジェラ・エルストブ・ストーラー
（オーストラリア）16 歳
- 小田 しおり（福岡県）16 歳
- 矢部 愛子（日本<英国在住>）16 歳

- サマンサ・カーリン（米国）11歳
- セゲフ・ロム（イスラエル）11歳
- 小倉 藍歌（東京都）12歳
- マリナ・ナンチェヴァ（ブルガリア）12歳
- ヘレン・ズーバ（ロシア）13歳
- 印南 梓（東京都）14歳
- 梅津 千晶（東京都）14歳
- 河西 庸佑（日本〈中国在住〉）14歳
- 佐藤 亘（東京都）14歳
- ベージャット・サハール（パキスタン）14歳
- ムタレ・ギブン（ザンビア）14歳
- メヘルノッシュ・ミノール・バーダ
（パキスタン）14歳
- ヤラ・アルアディブ（クウェート）14歳
- 伊佐 朋之（東京都）15歳
- 小倉 愛実（東京都）15歳
- シッドウハルス・マルホトウラ（インド）15歳
- 徐昊寧（中国）15歳
- ジョナサン・モイラン（オーストラリア）15歳
- ダニエラ・アレハンドラ・ソト・ソト
（チリ）15歳
- ハリエット・ライリー（オーストラリア）15歳
- ベン・ラックス（オーストラリア）15歳
- ヌホジック・ネルミナ
（ボスニア・ヘルツェゴビナ）17歳
- ハニン・イスマイエル・アブド・アルラーマン・
アフマッド・シュカイル（ヨルダン）17歳
- プールニマ・ウェーラセカラ（スリランカ）17歳
- アマヤ・エンペラン・レガプシ（メキシコ）18歳
- 中谷 光昭（埼玉県）18歳
- ナムヤロ・キャロライン（ウガンダ）18歳
- ムテト・カンダラ・レイモンド（ザンビア）18歳
- メンアット・アッラー・A・ガーファー
（エジプト）18歳
- ウィズダム・ウワグウ（ナイジェリア）19歳
- タニア・ラケル・コラレス・サマニエゴ
（パナマ）20歳
- トロイツカヤ・ナタリー（ロシア）20歳
- ナデージュ・アネン（ルクセンブルグ）20歳
- V・V・バラジ・ビスワナタン（インド）20歳
- マアリカ・メリランド（エストニア）20歳
- ヴァレンティナ・クリチック（キルギス）21歳
- スィディコフ・アジズ（キルギス）21歳
- 王 翔（中国）22歳
- アネラ・フリーマン（米国）23歳
- テイトヴァ・エレナ（ロシア）23歳
- シラン・オトゥル（スウェーデン）24歳

学校特別賞（2校）

- 武蔵野東中学校（東京都小金井市）
- アメリカンスクール・オブ・クウェート（クウェート・クウェート市）

魂について

（原文は英語）

テオドラ・ミホック（15 歳）

ルーマニア・シビウ市

メタモフォーシス文化教育学院

人間の社会はずっと進歩してきました。肉体や物質だけでなく、魂も進化してきました。私は前者の 2 つと後者の進化の違いについて注目したいと思います。肉体と物質の進歩は世代を超えて引き継がれます。それは数百万年前に始まり現在も続いています。一方魂の進化は全然別で、一人一人が自分で始めなければなりません。自分にとってベストの方法を選ばなければなりません。

自分や世界にとっての希望や夢を考える時、私はどちらについても同じメッセージが当てはまると思います。なぜなら私自身も世界もみんな同じ人間だからです。

全世界というと大き過ぎるので、少しずつ考えていきたいと思います。私は世界には何か欠けているように感じています。そこでその隙間を埋める一片を見つけたいと思います。

現代は社会の質が高くなっていて、膨大な知的情報や科学技術の発展が驚くほど高い水準にまで達しています。人々の生活は昔よりはるかに快適になり、知識も増え、世の中のあらゆる物事について非常に興味深く賢い考えをするようになったので、一人の人間の頭でそのすべてを理解することはとても難しくなっています。一方では貧困の蔓延、飢餓、戦争、殺人、多くの誤った行いなど、数多くの欠陥が存在しています。それをすべて書き出そうとすると何百ページかかっても終わりません。

しかし、これはただ単に世界の一つの側面である社会現象に過ぎません。これは物質的な世界です。世界に多くの欠陥があるのは、人々がお互いに利己的であったり、この世で完璧な幸福を追い求めているからです。ほとんどの人は、自分たちの人生の意味を分かっていないし、探求した事もありません。人々が掴んでいるのは、つかの間の人生を快適に過ごすためのつかの間のものだけです。彼らにとって愛とは、自分の体や心を満たすつかの間の欲望であり、人生とは他愛もなくあれこれ騒ぎ立てる場であり、その果てに死んでしまうものなのです。

ほとんどの人々は神を信じず、物事の道理や善悪の価値基準を持っていません。真実の愛や憐れみが必要だと感じてはいません。ついには、私利私欲や物質の所有は当然の権利だと考えるようになりました。世界は人間の価値を表す絶え間ない進歩の渦中にあるように見えます。しかしそれは単に考



えることが出来る動物、驚くほどの知能を有して進化する動物の性質を表しているに過ぎないようです。魂は知性を生かすことが出来ても、知性が魂を生かすことは出来ません。世界がそれを証明しています。

私は、人々に神の必要性に気づいてもらいたいと思います。そして、愛がどれだけのものをもたらすことが出来るかを知ってほしいと思います。世界中のあらゆる問題は人々の真実の愛によって必ず解決出来ると思います。私は人々が最も気高い形でお互いに愛し合っほしいと思います。これは私が人々に対して望むことであり、同時に自分自身に望むことです。しかし、愛には計画など必要ないので、私はどうやって自分の目標に到達できるのか分かりません。もしそれが現実のものになったら、私は心から自分自身や全世界が「幸せ」だと言えらと思います。

2003 年度国際ユース作文コンテスト

【若者の部】 文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）

平穏な生活

（原文は英語）

ミランティ・ダニアル（19 歳）

インドネシア・ジャカルタ市

インドネシア大学

私にとって、未来の地球や未来の自分についての夢や希望とは何でしょうか？このテーマを読んだ時、私の頭に浮かんだのは「平穏な生活」という言葉だけでした。

もし皆さんが私の国に住んでいたならば、きっと生活が正常な状態に戻り、家の外に出ることを恐れたり、街中でまた暴動が起こったりすることがなくなることを何よりも望むはずです。1997 年に起こった経済危機は、私の国を暗闇の中に突き落とし、人々はたいへんに苦しみました。この経済危機は、まるで病気のように私たちの生活の隅々にまで影響を及ぼしました。



経済危機以来、私の国ではいろいろな事が起こりました。殺人事件や、暴徒化したデモや、地域社会に対する軍部の暴挙や、異宗教や異党派同士の論争、政治運動を巡る政治家同士の主導権争い。そして最近では、多くの人命を奪ったアチェ独立州の独立アチェ運動（G A M）の制圧に政府が乗り出したニュースなどを毎日のように耳にします。人々は生活の苦しさから絶望しています。事実、多くの人々が食べる物も家も無いような状況に置かれています。多分そのせいだと思いますが、今や人々は簡単に他人を傷つけたり、自分たちの良心から目を背けたり出来るようになってしまいました。人々はそうした状況に憤りを感じながらも、不満をぶつける矛先を見出せないでいます。現在、直面している状態はまるで終わりのないストーリーのようです。どの人も自分勝手になり、他人の物を平気で盗んだり、ひどい場合には殺人を犯してまでも、自分の欲求を満たそうとすることができるようになっています。彼らの頭には自分や家族が食べていくことしかないのです。これが私の国で起こっている現実です。

私の国で起こったことは、恐らく他の地域でも起こっているはずですが、誰もこんな状況は望んでいないし、誰もこんな苦しみは味わいたくないはずですが。しかし、人々がお互いに助け合う代わりに戦っているような状態で、私たちはどうすればこの病巣を取り除くことが出来るのでしょうか？私は、結束こそが私たちに平穏な生活をもたらす最も大切な要素だと思います。私は、皆さんにどうすれば利己的にならず、もっと周りの人々を理解出来るようになるかを考えてもらいたいという気持ちで、この作文を書いています。利己的にならないためには、自分たちが与えられた環境に感謝することだ

と思います。自分たち自身や与えられた環境に感謝をしている限り、不満を感じる事などありません。私たちにはいつでも感謝できるものがあります。私たちは生まれてきたこと、生きる機会を神さまにいただいたことを、まずは感謝しなければいけないと思います。

自分たちが与えられたものに感謝できるようになったら、今度は周りに目を転じるべきです。自分たちほど恵まれていない人々がたくさんいるはずです。他の人を助けることはいつでも、とても素晴らしいことです。他の人の痛みを楽にしてあげた時に心の中が温かくなったり、自分のしたことで誰かが微笑んでくれた時に幸せを感じたことはありませんか？この感覚はこの世の最高のものだと思います。

私の心には、誰もがお互いに感謝し助け合っている光景が浮かびます。地球上の人々が結束し、国同士の戦争もすべて消え去った光景が、そして地球がすべての人々にとって日々の生活に不安を抱くことなく平和に暮らせる場所になっている光景が、はっきりと浮かんでいます。

私は、この地球の未来への夢が早く現実のものとなるように願っています。なぜなら、誰であれ、私たちはみんな心の奥深くでは世界平和を欲しているはずです。私たちはみんな慈しみの心を持っていて、お互いに愛し合うために神さまによって創造されたのだと信じています。みんなで力を合わせ、地球をもっと住みやすい場所に出来ると確信しています。

私の未来の夢

(原文は英語)

ミリセント・ボア・アンポンセン (14 歳)

アメリカ・ミネソタ州

ローズビル地区中学校

そもそも夢というものがなければ、どうやってなにかを形にすることができるのでしょうか。私たちは今よりもっと大きなことを思い描くことが必要だし、世界で本当に価値のあるものを見直すことが必要です。私たちは夢によって成長します。私が知っている偉大な人物は、みんな夢を持った人たちばかりです。決して簡単ではないけれども、何千マイルの道のりも最初の一步から始まるのだということに、私たちは気がつかなければならないと思います。

私の子どもの頃からの夢は、有名なジャーナリストになることだけでした。すべての卵を一つのかごに入れてはいけないということは分かっていますが、自分の心の中で偉大な人物になることを夢見つづけていれば、どんな障害があろうと必ず成功するのだという確信もあります。なぜ私がジャーナリストになりたいかと言うと、世界の人々の人生を変えるようなニュースを発信したいからです。テレビに出てお金を稼いだり楽しんだりするのが目的ではなく、情熱を持って世界に対して関心を持っている人たちがいることを知らせたいからです。私がジャーナリストになりたい最後の理由は、自分の国の誇りになりたいからです。マイノリティに属しながら多くの人々に認めてもらうことは簡単ではありません。しかし、自分にも世の中に影響を与えることができるのだと、人々に対して証明したいのです。また、ジャーナリストになって人生を満喫したいと思います。なぜなら、人生とはいつも他人を仰ぎ見ることだけではなく、自分自身が夢やビジョンを持ち、計画をたて信念をもって、それらを行動に移すことだからです。

競争は生易しいものではありません。だから私は自分に対して、世界を変えられるのは自分自身しかいないのだと言い聞かせるようにしています。また、人は誰でも自分の人生の目標を果たしたり、世の中に変化を起こしたりするために生まれてくるのだと信じています。だから自分がやらなければ、誰も代わりにやってくれないのです。

私個人の夢も大事ですが、同時に世界にとっての夢も大切だと思います。今、私たちは混沌とした世界に生きているようです。戦争、テロ、暴力、殺人、レイプ、麻薬、未成年の妊娠、そしてどんな病気よりも恐ろしいエイズがあります。完璧な世界はありえないとは言え、すべてがコントロールの利かない状態です。私は何とか、人々が世界をより良い場所に変えるお手伝いをしたいと思います。アフリカの人たちが食料や衣類がないのを見ると、とても心が痛みます。私は実際に自分の目でそう

いう人たちの姿を見たことがあります。こうした子ども達がたとえどんな状況に置かれていようと、どんな姿をしていようと周りから愛されることを願っています。

私はひたすら、世界の未来の姿を夢見ています。私の願いは、すべての人間が平等に造られていることを認め、社会的な地位が高い人たちがいても、お互いに尊重し合って正しく接するということが出来る日が訪れることです。また、若者たちが暴力的でない正しい生き方を教えられ、世界中の人々が平和に暮らせることです。すべての人々が世界に向かって、ありのままの自分を誇りに思っていると、臆せず胸を張って言えるようになる日が来ることです。

これから何世紀も時間はかかるかもしれませんが、未来の一番いいところは、一日ずつやって来ることです。もし私たちが世界をより良い場所に変えたいならば、やがてその日が来るように、今から作り始めなければなりません。夢を持ちそれに向かって努力することによって、私たちは世界の未来を創っていくことが出来ると思います。

未来への願い

(原文)

今井 絢 (14 歳)

日本<英国ニューキャッスルアポンタイン市在住>

北東イングランド補修授業校

「絶対に力になりたい。」

強い感情が、私の心をよぎった。

全ては一つのテレビ番組から始まった。茶色に変色した、小さすぎるワンピースをまとったガンビアの少女。彼女は、はっきりとこう言っていた。

「大きな紙と短すぎない鉛筆で、先生と友達に囲まれた授業を受けてみたい。」

戦争での空襲や地雷で両親を失い、さらに自分自身も右目が不自由になってしまった彼女。頭から耳まで、ぐるぐる巻かれた包帯が邪魔な様で、しきりに耳の後ろにかけ直していたのが記憶に残っている。…そんな体なのに、自分の小さな弟と妹のために、朝から晩まで働かなければならない。体中のきしみが、テレビのこちら側にも聞こえてくる様だった。「学校へ行きたい。」と、そう言った彼女は、まだ八歳になったばかりだった。

戦争に無関係な人々を、戦いに巻き込むなんて、こんな残酷なことはない。しかも、彼らの人生を権利もないのに、めちゃくちゃにするなんて絶対に許されない、と私は思う。

しかし、「戦争」なんて、私がどうこう言って解決される問題ではない。だからせめて、私が出し切れる力を使って、恵まれない人達を助けていきたい。

私が彼らのために、力を尽くしていきたいこと。それは、自分の持てる全ての知識を子供達に伝えることだ。自分が学び、受け継いだ知識や技を、そっくりそのまま教え伝えたい。特に、あのガンビアの少女の様に、学校に行きたくても行けない子供達に、先生となって授業をしたい。

十四年と三ヶ月間。私は何人もの人から、学問を学んだ。人生を学んだ。感動を知り、命の大切さを心に刻んだ。そして、愛情を受けた。どんなに貧しくても、どんなに恵まれていなくても、私と同じように教育を受ける権利は誰にだってある。ただ、それを実行に移せる人物が必要なのだ。

私なら、それができる。彼らの人生にもう一度光を照らしてあげられる。チャンスを与えられる。運命は自分で変えていくものだ、そう思ってもらえる。

もし私が教え伝えたいことによって、誰か一人でも、人生を自分の力で歩いていくことができるようになるのなら、できるかぎり力を尽くしていきたいと思う。そして、戦争に巻き込まれてしまっても、その犠牲にはならずすむ様な世界が待っていると願う。

人間は、歴史の中で何度となく戦争を繰り返してきた。だから、もしかしたら戦争は永遠に終わらないのかもしれない。それでもせめて、犠牲者が、もう一度幸せになれるチャンスをつかむことのできる、そんな未来を私は作り上げる手伝いをしたい。

愛がすべて

(原文は英語)

チャンダ・ムタレ (17 歳)

ザンビア・ルサカ市

カフエ男子高校

僕の未来の夢は、大学に入って医学を勉強し、自分の国の発展に貢献することです。僕はエイズ撲滅の闘いにも加わりたいし、自分の国が経済的困難から抜け出してほしいと思います。

しかし世界が不確実で、より良い未来への確信が見出せない中であっては、僕の夢もかすんでしまいます。僕の描く地球の未来像は、単一通貨でも、単一言語でも、単一政府でもありません。たった一つ、愛だけです。すべての人々を包み込む愛、人を差別することのない愛です。それがあれば、僕たちは単なる地球村以上のものを手に入れることが出来ます。言葉の壁を越え、人種間の争いの歴史を忘れ、みんな一つであるという意識を持つことが出来ます。

今の世界はたくさんのお腹をすかした子どもたちで溢れています。一日に三食を食べるという楽しみを知らない子どもたちです。僕の願いは、これらの子どもたちが日の目を見ることです。彼らが毎日ちゃんとした食事にありつけることです。コンゴ民主共和国の子どもたちのことを考えてみて下さい。生まれながらの孤児や、歩くことを覚える前に手足を切断されてしまった子どもたちのことを。誰が彼らに食料を与えるのでしょうか。これらの子どもたちは世界の一部、僕たちの一部なのです。彼らは未来であり、彼ら無しの未来は有り得ません。国連は様々な国で、助けを必要とする人々に対して人道的な支援を行ってきました。もし一人一人がそのような愛の気持ちを恵まれない人々に向けたならば、国連が目ざす貧困の撲滅を充分達成できたことでしょう。

貧困のない世界をつくるための答えは、食料の大量生産だけでなく資源の公平な配分もそうです。これは愛の行為によってのみ可能となります。なぜ、チューリッヒやフランクフルトでは食べ物豊富にあり、子どもたちが自分のペットに分けたり捨てたりしている一方で、ハラレやピョンヤンの子どもたちは餓死しなければならないのでしょうか。僕は愛が全世界に等しく分配されるような未来を心から願います。ケープタウンからカイロまで、ワシントンDCからマニラまで、たった一つ、愛だけがすべての人々の悲しみを包み込みます。それは兄弟姉妹だけに対する愛でなく、人類に対する愛です。

戦争の無い世界をイメージできますか？僕が考える戦争の無い世界は本当にすばらしいものです。世界中の子どもたちが笑って楽しく歌っています。彼らには親や兄弟姉妹を戦争で失ったなどという悲しい記憶はありません。国々が互いに憎み合うことはなく、政府は近隣諸国のことを大切に考えて

います。ハイジャックの心配もなく人々は自由に飛行機に乗り、テロリストや自爆テロという言葉もありません。小鳥たちは新緑の木々の間でさえずり、野生動物たちは木々の間を自由に走り抜け、川の流りがきらきらと輝いています。

これらは、恐ろしいマシンガンの音や核爆弾による苦しみなどとは全く無縁の、未来のイメージです。立派な人たちがすべての誤解を話し合いで解決するような世界、武装した兵士のいない世界が訪れてほしいと思います。人類はいずれ枯渇してしまう油田や、仲良く分かち合えるはずの漁場を巡って殺し合う必要があるのでしょうか？そんなはずはありません。僕は世界中の人に、戦争には勝者はいないということに気づいてほしいと思います。

犯罪の要因の一つは少年期に溜まったフラストレーションです。犯罪者の多くは少年時代に悲しい体験があります。戦争や虐待、貧困、親の育児放棄が彼らから愛を奪い取ったのです。しかし僕たちは将来、子どもたちを愛し、彼らに教育の機会や十分な食料、そして家族のぬくもりを与えることによって、犯罪を減らすことが出来ます。僕が夢見る犯罪のない社会は、世界中のすべての子どもたちが愛されるようになって、はじめて実現します。そうなってはじめて、子どもたちは互いに愛することを学び、成長するのだと思います。人間はしばらく、スピードの出る車や休みなく働くコンピュータから離れ、格好いい携帯電話の電源を切り、銀行口座のことを忘れてみてはどうでしょうか？そうすれば、絶望した子どもたちの泣き声が聞こえてきます。助けもなく放っておかれれば心は憎しみだけになり、やがては犯罪者になってしまいます。そうなってはじめて世間は、この子どもが本当に求めているものは、車でも携帯電話でも銀行口座でもなく、純粹で分け隔てのない愛だったということに気がつくのです。愛が溢れる世界には暴力も犯罪もありません。

僕は、児童虐待問題を扱う裁判所が設置され、また子どものための国連議会在一日も早く設置されれば良いと思います。世界の宗教が争いを止めて、一緒に平和を祈ると良いと願っています。

僕は、自分が抱いている平和な世界への夢はきっと叶うと信じています。なぜなら、僕は夢から覚めて空しい気持ちになってしまう夜にではなく、昼間に夢を思い描いているからです。僕には、世界が一つに愛で結ばれ、自分たちをお互いに隔てるものは山や海しかなくなる光景が目に見えます。ワニたちは見た目には不格好でも、仲間同士で愛し助け合っています。こんなにも美しくつくられた僕たち人間が、それ以上に愛し合えないはずがありません。

希望のマントラ

(原文は英語)

キャサリン・ローズ・トレス (23 歳)

フィリピン・マリキナ市

フィリピン大学卒業

「ナマステ」とは美しい言葉です。これは古代サンスクリット語の祈りで、「私は全宇宙が宿るあなたの内なる世界を賛えます。愛であり光であり、真実であり平和であるあなたの内なる世界を賛えます。あなたがあなたの内なる世界に住する時、そして私が私の内なる世界に住する時、私たちは全く一つです」という意味です。

私が思い描く未来は、一人一人がこの美しい祈りを呼び覚まし、自分たちの命にその息吹を吹き込み、軽蔑ではなく慈しみをもって、無関心ではなく愛情をもって、お互いが向かい合えるような世界です。

心に描くこととそれを実現させることは、また別です。数々の不調和や災難を抱える世の中の現実を改めて眺めると、私たちはついつい勇気を失ってしまいがちです。しかし、私たちは決して無力ではありません。「地球の未来は私の未来であり、私がつくる自分の未来が地球の未来を形作る」を私たちのスローガン、マントラにするべきです。

寛容の心は、このような希望の明日を育む種の一つです。人類は共通の糸で結ばれています。それなのに、なぜ私たちは「違いの小島」にばかり目を向け「一つにつながっている大海」を見ようとしないのでしょうか。

私たちの世界において、憎悪の根源となっている宗教について考えてみましょう。それぞれの宗教の根本精神に立ち返ったならば、宗教は私たちを分離させるものではないはずです。自分たちの説く真理こそが究極のものだと主張する人たちは、決して他の人に強制する必要などないはずです。なぜなら、本当の真理とは誰の目にも明らかだからです。

偉大なる精神指導者ガンジーは、「私の努力は決して誰かの信念を攻撃するものであってはならない。むしろ、その人が自分の信念をより深く貫けるよう導くものでなければならない。」と説きました。なぜ私たちは他人を自分たちの考え方や生き方に変えさせようとするのでしょうか。宗教や生き方の様々な面で、私たちは大義をかかげ、自分たちを見習うよう他人に強要することがあります。

歴史的に見るとある国の人々が、自分たちのたどった発展過程を他の国人々に対して、彼らを「より文明的にしよう」として、押し付けることが数多くありました。それはしばしば強制退去や混乱、苦しみや争い引き起こしました。

人々は内なる知恵によって導かれ、それぞれに与えられた特有の環境によって才能を開花させるのです。人間の尊厳を踏みにじることがない限り、皆それぞれ自分たちの判断で生き、その生き方を守ってゆく方がむしろ崇高ではないでしょうか。

私が心に描いている地球は多様でありながら一つに結ばれた世界です。多様性は、単に生物の進化という意味合いだけではなく、人類が生き残るための重要な鍵です。それは人間の体験を豊かなものにしてくれる源であり、精神を高め上げてくれるものです。単調さや単一性は魂の自由性を奪い靈感を閉ざしてしまいます。

私たちがみんな、全く同じように考え生きている、まるで一人一人がお互いを鏡に写したような世界を想像してみてください。孤独で、退屈で、真新しさも新鮮さもない、そんな世界は私たちをより高い次元の創造へと駆り立てることは出来ません。文化とは単なる飾り物ではなく、人々の生きていくための力の源泉なのです。

自然界における生態系の多様性は人間界における文化と同じです。私たちの地球は、たった数種類の生物を誕生させ進化させたのではなく、ありとあらゆる種類の生物を用意してくれたのです。地球は自らを何百万種類もの様々な生物で飾りました。それは、単に美しくなるからという理由だけでなく、それらが絶対不可欠なものであったからです。

私が心に描く未来は、自分たちが自然の中に暮らしながらも自然を生かすことの出来るような世界です。そして、子どもたちが生まれて初めて耳にする音は雲や木々、小鳥たちや海の声であり、初めて覚える言葉はすべての生きとし生けるものとの愛や調和の言葉であるような世界です。

私たちはいつも「子どもたちにどんな地球を残そうとしているのか？」と自問します。しかし、そろそろ「どんな子どもたちを地球に残そうとしているのか？」と自問しても良い時期に来ているのではないのでしょうか。

私はもはや子どもではありません。23歳になり、今度はそろそろ自分の子どもを生む年齢です。私は未来の自分や未来の地球に対して大きな希望を抱いています。そして、その希望を現実のものにしようと努力しています。それは既に自分だけのものではないからです。

私たちが、地球や人類に残すことのできる素晴らしい遺産は、自らの手で世界を変えられると信じ情熱を傾けている若い世代や、より良い地球と未来の夢を心に描き、それに向かって行動している子どもたちです。

これは壮大なビジョンであり、人類にとってたいへんな課題です。しかし、私たちは無力ではありません。自分たちの内にある、お互いが一つに結ばれ宇宙を宿している世界から変化を起こさずれば、私たちはきっと希望を実現させることが出来るでしょう。

信念の力

(原文)

山崎 康正 (13 歳)

東京都

私立暁星中学校

この前、テレビでイラク戦争終戦後の子ども達が映っていた。彼らは皆、体中に火傷を負う大けがをしていた。それも理由は、戦時中に攻撃されたのではなく、戦後に井戸へ水を汲みにいったり、あるいは、働きに出かける途中で、残っていた不発弾が何かの理由で爆発したからだといっていた。

更に、病院へ行っても、薬品不足で痛み止めや火傷の薬がなく、十分な治療が受けられずにいた。

一人の、僕よりずっと小さな男の子が治療室で泣きながら、「僕が悪いことでもしたの？」と悲痛な叫び声をあげていた。その子の母親の目からは大粒の涙がこぼれていた。

僕は、そのテレビから映される悲惨な光景が目に焼きついて離れなかった。

本来、医学や化学というのは人を「救う」ために学んだり、作られたりするものであるはずなのに、それが逆に、人を「殺す」ために使われるなんて、どこまで人間というのは愚かなのだろう。

僕は以前読んだ「星の王子様」の本を思い出した。こんなことを繰り返している地球を、遙か宇宙から見てみれば、何て不思議な事をしている星なのだろうと思うだろう。

起きてしまったことを、誰のせいで、何が原因なのか、ああだこうだ言うだけの評論家になりたくない。

誰も行きたくない、行きたがらない場所へ体を張って井戸を掘ったり、病気やケガ人の治療にあたる医師や看護婦の様に、何も騒がず、人のために自分ができる精一杯の努力をする人に僕はなりたい。

今、僕は登山家で有名な野口健さんにハマっている。先日、四回目のエベレスト清掃登山から帰ってきたばかりだ。

一時、彼の行動が売名行為と非難された時期もあったけれど、信念を曲げずに続ける事によって、彼の行動に賛同し、協力する人も出てくる様になった。

今、僕は将来、自分に何ができるのかは模索中で、どんな職業につくのかさえも見えてこないけれど、どんなことをしていても、常に自然環境を守り、平和を願って、そういった人達と関わっていきたい。その信念を持ち続けて行動すれば、それは必ず人を説得する力となり、僕一人ではなく、大きな力となって、戦争のない、宗教や国境のへだたりもない、全ての人々が平和な暮らしをおくっている世界になると、僕は確信している。

平和の姿

(原文)

加賀野井 薫 (14 歳)

東京都

私立武蔵野東中学校

「一人を殺せば殺人者となり、百人を殺せば英雄となる。」誰が言った言葉なのか思い出せないけれど、戦争を皮肉った言葉として、今でも強く僕の印象に残っている。戦争とは理不尽なものだ。それを起こした当事者たちは善人をよそおい、「正義」だの「正当性」だのを唱え、平和のために戦うのだというようなことを言う。しかし、平和を築くための戦争などというものは果して存在するのだろうか。

現についてこの間起こったイラク戦争では、アメリカはフセイン政権を倒して、平和な国を作るといって大儀名分を掲げていた。だが、戦争の終結したイラクは、本当に平和なのだろうか。毎日報道されているテレビを見ていても、絶え間なく暴動が起こり、人がリンチされ、死んで行く。そのなかで、人々の心はすさみきっているに違いない。これが僕たちの夢見ていた平和の姿なのか。その国を直すと豪語していた人々は、その役割を果たしているのだろうか。連日マスコミを騒がせていたあのアフガニスタンを思い出してみてもいい。世間の目はいつのまにかイラクに移り、あの国は忘れ去られてしまっている。本来ならば今頃は、平和と民主主義とに満たされているはずの国が、そんなところからは程遠いような状態にあることは誰の目にもあきらかだろう。下手をすれば、以前よりもひどい状況になっているのかもしれない。

今の僕たちはただの中学生。世界に出て活動できるような歳ではない。だが、そんな僕たちにも何かやれることはないのだろうか。何かをすぐさま実行できなくても、少なくとも自分自身のなかで、善悪とは何か、平和はどのようにしたら実現できるのかといった問いを深く考えることが大切だと僕は思う。まずは自分自身を見つめなおすことから始めるべきなのだ。そうすれば、こうした歩みを進める僕たちが大人になったときに、同じ志をもつ仲間が集まって、みな望むような本当に平和な世界の一部だけでも、この地球上に作り上げることができるかもしれない。

すべての事を、武力とは違う「言葉」という力で解決し、お互いを理解しあうことができるならば、その時はじめて、長いあいだ夢見ていた本当の平和の姿が見えてくるのではないか。僕が、この目でその姿を見届けられるかどうかは、ひとえに僕たちの努力にかかっているだろう。

僕の描く未来ビジョン

(原文は英語)

フィーラス・ズハイル・アルナサール (10 歳)

クウェート国・クウェート市

アメリカン・スクール・オブ・クウェート

もし僕が自分の国の指導者だったならば、国民に平和をもたらします。学校や貧しい人達のための病院を無料にします。すべての国民にとって公平な法律を作ります。絶対に戦争は起こしません。なぜなら、戦争はとても悲しいことだからです。僕は貧しい人たちに自分のお金を分けてあげます。みんなのためにお店や娯楽の場を与えます。国民には国のためにいろいろな決定をしてもらいます。僕には十分な食料があります。もし無ければもっと手に入れます。国民にはみんなで協力して国土を汚さないようにしてもらいます。国のために十分な数の空港を建設します。そうすれば、国民は旅行に出掛けられます。道路を一生懸命良くします。国内の安全を守ります。他の国々とは絶対に敵同士の関係にはなりません。僕は、未来の指導者にはやらなければならないことがたくさんあると思います。

将来、世の中の状況はもっと良くなると思います。戦争も無くなると思います。たとえ各国の指導者同士が何かについて合意できなかったとしても、戦争以外の解決法を見つけられるはずで、罪を犯す人たちもそれ程多くなりません。なぜなら、僕が貧しい人たちを助けるからです。僕は悪い言葉を使いたくないし、悪いこともしたくない。と言うのも、殺人事件もたくさん起こっているけれども、誰かが食い止めることが出来ると思うし、少なくとも僕なりに殺人事件の数が減るように努力するつもりだからです。人々は他の人たちのことを理解し始めると思います・・・どこの国のどんな人たちも同じように扱われるようになると思います。貧しい人たちがいろいろな物を無料で手に入れられるようになることさえ思っています。そうなれば、誰も戦争や殺人で殺されることはなくなるはずで、

僕たちは、いつの日かあらゆる惑星を旅することが出来るようになるはずで、そして、新しい惑星を発見したり、自分たちが住める惑星を発見したりするはずで、人々はそんな惑星に移住して、他の生き物とも出会うようになると思います。生活もきっと良くなるはずで、僕たちは、今はまだ治すことの出来ないウィルスや細菌による病気に対する治療法をきっと見つけることが出来るでしょう。何らかの技術を持った人々の数ももっと増えると思います。人々は新しいものを発明し始めるのですが、どんなことをしても悪は完全には無くならないので、僕たちは悪が少なくなるよう努力します。僕たちにはヒトラーも第 2 のサダムも絶対に必要ありません。

僕は自分の描くビジョンが実現して欲しいと願っています。もし僕のビジョンが実現したならば、

世界はきっとより良い場所になっているに違いありません。だからこそ、僕は世界平和を望んでいるのです。

私の未来の夢

(原文は英語)

ダーシャ・ネムチノヴァ (14 歳)

ウクライナ・ザポリージア市

第 107 中学校

子どもでいるのは最高です。すべてが輝いていて、自分のお気に入りのアイドルが漫画の主人公だったりする、そんな気楽な子ども時代を過ごしている時、私達は問題について考えたりなどしません。しかし、その時がきました。自分達の未来を考えるだけでなく、それを引き受けなければならない時が。私の未来は、もちろんほんの夢にすぎませんが、それを実現するためなら、私はなんだってするつもりです。

今、私は熱心に外国語を学んでいます。私の未来は、それに直接結びつくことになるだろうと思っているからです。もちろん、翻訳家になること、もっと言えば非常に知識の高い翻訳家になることだけが、私の夢ではありません。自分の将来が演劇に関係したものであってほしいとも思っています。偉大な劇場の舞台か、映画のセットにいて、世界中の素晴らしいスター達と外国語で気楽に話をしていく自分を、いつも空想しています。この道を進みたいという願望のせいで、私は楽な職業を夢見たりはしません。ほんの少し前ですら、私は自分の将来を考えたことなどありませんでした。自分の周りで起こっていることすべてが好きだったのです。でも、ほんの少しだけ大人になった私には、なんでも簡単にいくわけではないことがわかりかけてきました。小さい頃にはおとぎ話に囲まれていたけれど、今ではすべてが現実です。現代の問題についてもたくさん知っています。私達が住んでいるこの地球の汚染というのは、最も大きく、最も重要な問題だと思います。このことを私はいつも考えているし、自分自身やこの地球のことを考えると、恐怖を感じます。人生という贈り物はとても素晴らしいもので、私達がそれを生きられるのは一回だけです。この神から私達に与えられた奇跡を、病気や戦争、テロリズムや破壊を引き起こさずに、良い方に使うことはできないのでしょうか？もちろん、私の将来の仕事はきれいな空気を回復することとは関係ありませんが、この問題を解決する援助はするつもりです。自然を保護しなければならないのはわかっています。だから、お菓子やそんなようなものの紙を道に捨てたりはしません。そんなことは、世界の汚染から見たら大海の一滴に過ぎないけれど、それでもなにかしら意味はあるのです！地球の生態学的状況について考えているのは、私だけではないはずです。国際的機関であるグリーンピースは、しょっちゅう、地球の未来を気にかけていない政府や企業、人々を悩ませています。

残念ながら、私には「みんな！止めて！あなた達が私達に何をしているのか、あなた達の世代が何をしているのか考えて！」という機会がありません。でも、もしそんな機会が与えられたとしたら、私は断らずに、それを効果的に利用するでしょう。それは私の地球、私の未来、そして私の子ども達の未来なのです。多くの過ちを犯して生態系を悪化させたのは、私達の祖先なのだから、私達が彼らの犯したすべての過ちを正す手助けをしていかなければなりません。自分の演技力をもとに、私は自分が世界で演じる必要のある役割を考えています。それは率直で無防備な地球の魂です。その魂は、人類がどんなに不当に地球の資源を使用しているかを私達に見つけます。その魂は、火山の噴火や竜巻を起こして、自らを守ることができるけれど、それでも自分の子ども達を愛し、すべての苦痛に耐え、すべてを許すことで、私達に自分達の地球を思い出させるのです。そんな愛の瞬間や、自分達の母なる地球に無関心でいたことに対する責任を、みんなが信じ、感じてくれるように、私は自分の役を演じたいと思います。

英語は国際語なので、私は英語でのみ自分の役を演じたいと思います。人々に私の映画を見て、自分達のことだけでなく、自分達の子孫のことでも考えてもらいたい。そうすれば、生態学的惨事がこの地球を脅かさない限り、私の未来も、地球の未来もそれほど悪くはならないでしょう。

どんな時でも、新しい世代は前の世代よりも賢く生まれつくものだ、私は思います。それは、科学や技術の進歩からも判断できます。そのような知識があるからこそ、人類は一所に留まってはられないのです。おそらく、人類はオゾン層の穴や地震、酸性雨を止める方法を見つけられるでしょう。進歩する科学は、現在のことに対処するだけでなく、未来のあらゆる段階をも考慮しなければならないのです。

私達は、すべてを人工的ではなく、自然のままにしておく必要があります。結局、自然の海のほうが、人工の湾よりも美しく、木々は植木鉢の中よりも、森の中にあるほうが素晴らしいのだから。私の夢の中では、あらゆるものが生き生きとしていて、美しい。どの季節もそれ相当の気候の変化があり、鳥は籠の中ではなく、花の咲く木々の枝の上で鳴き、動物を絶滅の危機に瀕している生物を載せる「レッドブック」に載せる必要もなく、今や絶滅した動物だからと博物館でしか拝めない、ということもありません。そして、どの世代にも、周辺の世界を熱心に保護する誰かがいるのです。私の世代は、環境に配慮する必要性を感じていて、その正当性を証明しようと努力しています。なので、私や私の友人達が過ちを犯さなければ、私達の地球が死に絶えることはないでしょう。そして、これが唯一の方法だと、私は確信しています。

僕の未来の夢

(原文は英語)

ギデオン・アモアコ・サルポン (15 歳)

ガーナ共和国アクラ市

神学中学校

生まれたばかりの赤ん坊の泣き声が辺りに充満し、その父親の言葉に僕の注意は引きつけられました。「この子に神のご加護がありますように。そのご加護により、将来、この子が偉大なる人物となり、その行いが世界に影響を与えますように」その言葉で、僕は自分の夢を思い出しました。いつか、自分の行いが世の中に影響を与えるような偉大なる人物となって、世界を誰にとっても今より良い場所にするという夢を。その夢は僕に、これ以上ないほど平和と調和に溢れた世界の未来を連想させるのです。

牧師／医師になるという僕の願望は、その夢の中心にあります。病気を患い、貧困に喘いでいる世界中の人々を助けるのです。彼らはなにも悪いことをしていないのに、貧しい暮らしのために、治療すれば直るような病気で死んでいきます。医療制度や教育を十分に受けられないせいで、その生存さえ脅威にさらされるようになるのです。牧師／医師になれば、こうした人々が自分の置かれている状況を改善できるようにすることで、僕は身体的にも、精神的にも、彼らを手助けしていくことができます。こうした行為は、それだけでも平和な世界への大きな一歩となるでしょう。生きていくために人を騙したり、争ったりする必要がなくなるからです。

僕の目的を達成するためには、もっと一致団結した努力が必要です。従って、僕は自分が持てるあらゆる機会を、最大限に利用しようと努めています。「そこに決意が存在する限り、失敗は成功の旗をもぎ取ることはできない」と人は言います。ですから、僕は熱心に勉強し、僕が達成したいと思っていることを達成した人々に、助言を求めています。懸命な努力、決意、そして神への深い信仰を忘れなければ、きっとうまくいくでしょう。

僕の未来の夢は、平和と調和に満たされた世界が実現するまで完結しません。戦争は不安や人命の喪失、盗難、破れた夢などをもたらし、平和の妨げとなります。この極限に対する忍耐力が平和や調和の発展を増進させ、戦争を防ぐはずである、と言う人もたくさんいるでしょう。しかし、これはまったくの真実というわけではありません。永続する真の平和とは、心の内から始まるものだからです。

1989 年のノーベル平和賞を受賞したダライ・ラマ法王は、こう言って、心の平安の必要性を強く訴えています。「心の平安があれば、周りと仲良くやっていけます。自分のコミュニティが平和な状態であれば、その平和を近隣のコミュニティと共有することができるのです」心の平安を育むことは、平

和への戦いを導く僕を助けるのに大いに役立ってくれます。一生徒として、平和への戦いにおける僕の役割は、仲間同士の間での規律の欠如との戦いから始まっています。この規律の欠如が犯罪を招き、特定の国の平和や、ひいては世界の平和を乱しているからです。

また一方で、建設的な規律は、人々にあらゆる状況でとるべき適切な行動を教育するとともに、秩序をもたらし、地域的にも世界的にも平和と調和を維持するために、非常に必要とされている基盤を供給してくれます。僕自身、仲間内に肯定的な圧力をかける術を培い、それが僕自身の社会やその影響が及ぶ範囲に肯定的な結果をもたらしています。報酬や栄誉、悪評があろうとなかろうと、僕は自分の周りのものにより大きな関心を見せることで、僕や他の人達が置かれている状況の改善を目指していくつもりです。

僕達は団結して、世界中の争いに終止符を打ち、世界に平和をもたらさなければなりません。土地や優れた資源のための戦争に、終焉を求めなければなりません。どの国も、世界平和の統制機関である国際連合の憲章を重んじなければなりません。すべての個人が持つ神から与えられた権利は、尊重されなければなりません。国や個人の間での紛争は解決され、どの国も、地球上のすべての国の人々が平穏な生活を送れるよう、全面的に協力し合わなければなりません。

いつか、世界が平和になること。それが僕の、そしてこの地球上のあらゆる国に暮らす、平和を愛する市民達みんなの願いです。この平和によって、人々は差し出されたあらゆる機会を利用したり、仲間との関係を深めたりすることができるようになり、生産性の向上やさらなる調和が生まれるのです。世界人類が平和でありますように。そして、それが僕とともに始まりますように！

未来は「今」

(原文はフランス語)

ガブリエル・ロドリゲス・デ・カンパス (17 歳)

ポルトガル共和国コインブラ市

ハイメ・コルテサオン高校

僕は科学分野の勉強をしています。僕はここでクリエイティブな作文や文学論を書くつもりはありません。所詮、それは無理です。

僕が書きたいことは実践レベルのことで、自分の務めを果たしたいと思っているすべての人が同時に担うべき責任についてです。

僕は学校で、人は日常生活の中でどんな風に他人の人権を扱うかについて勉強してきました。結論について僕たちは互いにいろいろディスカッションをしましたが、時には理論と実際が大きく違うこともありました。

ロジャー・ラルンディエーは、次のように言っています。「未来は、クリストファー・コロンブスがアメリカ大陸を発見した時のようにそこにあるものではない。それは発見するものではなく、自分たちで創り出すものだ」と。ここで彼は、ロジャー流の未来の定義を言おうとしているではありません。人類の歴史は神によって予め定められた計画を実現していくだけのものではないし、事実の積み重ねだけでもありません。もし歴史が過去と現在の関係の中で起こった経験で造られるとすると、希望からも影響を受けているはずで、希望は未来を造る重要な要素です。人間は自分の目標を始める時に本当の意味で誕生し、その時はじめて生きていることを実感します。

もし人類が過ちを通して真理に至れるなら、過去を利用して未来を創造しようではありませんか。世界は僕たちが望むようになっていきます。なぜなら、未来を創造しているのは人間だからです。あるポルトガルの詩人が言っています。「一本の花を踏みつけたって、何百万もの花がつぼみを開かせていく。」未来に対する人類の希望は、何時だって終末の予言よりずっと強力です。僕たちは障害を希望に変えていかなければなりません。希望というエネルギーの流れは、感情や記憶や理性を総動員して今日と未来を築いていきます。

最近開催されたヨーロッパ社会フォーラムでは、何千人もの若者たちが集まり、地球の未来、即ち平和や、社会的権利、機関への参加、グローバルイゼーション、社会統合、生態系などについて意見を交換し合いました。若者たちは新しい秩序の呼びかけに対して、「今だ！」と立ち上がったのです。

僕自身といえば、僕もマーチン・ルーサー・キング牧師のように夢を抱いています。僕が抱く未来の夢は、人間が地上の天使になるような神秘的なビジョンでも、巧妙化する犯罪を警察の未来予知シ

STEMが未然に防ぐというSF風の筋書でもありません。僕は、一人一人の人間が、地球と自分を含めたその住人に対して責任を果たしている世界を夢見ているのです。世界の秩序は個人の秩序の結集であり、一人一人の存在、物理的・心理的・精神的環境が集まって形作られています。

教育はビジネスではないので、若者に対して、民主主義、連帯意識、社会正義の原則という、お金では計算できない価値を教えなければなりません。しかし心配は要りません。若者たちはこれら善なるものの本当の価値を知っています。未来は若者たちのものであると言われていています。それなら尚のこと、若者たちが主導権を握らなければなりません。僕の未来は親や学校の先生や政府だけに責任があるのではなく、僕自身の責任です。もし将来、尊厳や自己実現といった基本的権利をお化されたくないならば、アジア人であれヨーロッパ人であれ、仏教徒、キリスト教徒であれ、すべての人が僕と同じ権利を持てるように、全力を尽くす道義的な責任が僕にはあるということになります。

僕はフォーラムに参加して若者たちと未来について議論し合うという、素晴らしいチャンスを与えられました。自分と違う考え方に耳を傾けて受け入れたということは、既に暴力や差別に対してノーという意思表示をしたことを意味しています。そして、未来の為に働いている若者たちと一緒に過ごしたということ自体が、既に未来に生きているということになります。僕はこのような体験をする度に、ヨーロッパの片隅にある母国ポルトガルという小さな世界が大きく開かれ、他の人を受け入れることで自分の視野や時間が広がることを強く実感します。視野を広げることは他人を尊重し受け入れる世界を築くことであり、時間を広げることは未来を築くことになります。

僕が幼かった頃、母はしばしば、一人一人の心の中にいて夢をひたすら追いかけている純朴な男の賛歌について、話してくれました。

「昔むかし、一人の世界を旅する者がいました。ある日、彼はある町の巨大な建設現場にやって来ました。労働者たちはそれぞれ自分の仕事に没頭していました。この旅人が『何を建てているのですか』と尋ねると、建築家は『私がこの建築の責任者だ』と言いました。大工は『私は木材の担当だ』と言いました。『私は像を彫る彫刻家だ』・・・と、皆が口々に言いました。けれども、この場所を掃除していた一人の未分の低い老人だけは次のように言いました。『わしは大聖堂を建てているのだ』と。」

人生は本当に素晴らしい

(原文は英語)

ティナティン・ツエレテリ (18 歳)

グルジア共和国トビリシ市

トビリシ国立大学

私たちは、新たな進歩、新旧の問題、そして残念ながら新たなテロという戦争を携えて、21 世紀に突入しました。20 世紀の歴史を振り返れば、過去の過ちを繰り返さないためには何をすべきで、何をすべきでないのかがはっきりしてきます。

戦争は新たな戦争を引き起こし、テロは人々を復讐に駆り立てます。これらは大人たちの間違った決断がもたらした結果です。私はこれが人類唯一のあり方だと信じる事が出来ません。未だ紛争の正しい解決手段は見つかっていませんが、更にこの方向で努力することで平和的な紛争の解決が可能になってくるはずで

私は、新しく「世界指導者会議」や「紛争解決連合」といった組織が広島

の平和記念資料館の近くに設立されれば素晴らしいと思います。そうならば、すべての重要な決定がそこで下されるようになるかも知れません。そこでは、世界の指導者たちが改めて戦争の惨禍を目の当たりにし、あらゆる暴力に対し反対を唱える正しい決定を行うことでしょう。

私たちはこの地球を砂漠に変えてはなりません。空気を汚したり、動物を苦しめたり、自然の恩恵を破壊してはならないのです。自分をこの世に誕生させてくれた母親を愛するように、この地球を愛さなければなりません。幼い子どもを守り育てるのと同じように地球にも接しなくてはなりません。子どもたちがいなければ私たちの未来もないのです。

宇宙から見ればわかるように、地球は太陽のように真ん丸く、まるでボールのようです。とても美しい「天体ボール」です。でも、遊びに使う本物のボールとは違います。私たちみんなにとって、たった一つしかありません。私たちはみんな一緒にその上で暮らしているではありませんか。同じ空気を呼吸しているではありませんか。この「天体ボール」を粗末に扱ってもいいのでしょうか？ 答えは絶対にノーです。自分たちが座っている枝を切り落としてはなりません。「世界指導者会議」があらゆる種類の大量破壊兵器を破壊することを決定するよう、私は願っています。この決定が為されるためには、私たちはみんな積極的に働きかけなければなりません。

私の夢は、誰もが「人生は本当に素晴らしい！」と言えるような世界が訪れることです。つまり、みんなが幸せだということです。確かに幸せの尺度は人それぞれに違います。例えば、車を持つことや、子どもを持つことや、金持ちになることや、良い仕事に就くことや、有名人になること、あるい

は単にペットを飼うことや、人の役に立つことなど様々です。でも今、世界のどこかで戦争が起こっている時、私たちは幸せでいられるでしょうか。そう、戦争が存在し世界が平和でないうちは、残念ながら幸せにはなれません。

私たちの（グルジア共和国）アブハジア地方で戦争が始まった時、私は4・5才のカーリーヘアの女の子でした。家々に爆弾が落とされ燃えていた光景を、私は覚えています。そして、私たちは国内避難民になりました。私が自分の家を失い、家族と一緒に学校の小さな一室で暮らすようになってから、早くも10年が経ちました。その後、何度も死を目の当たりにして、私の髪は抜け落ちてしまいました。もう思い出したくもありません。十分です。私は健康になりたいです。そして、様々な国の言葉を学びたいのです。外国語を知っていると様々な国の人たちの考え方を理解することができるからです。（私はもう数ヶ国が話せるようになり、今は日本語を学んでいます。）

今、私はトビリシ国立大学で国際関係を勉強しているので、これから世界各地を廻って、将来は東洋学の研究者、特に日本の専門家になりたいと願っています。私は自分の平和な未来を創造するため、一生懸命勉強します。私は自分の経験から、戦争には勝者は誰もいないということをおもひに伝えたいと思います。私は和解が大切だと思います。難しいけれども不可能ではありません。一つの例を挙げると、教育開発アカデミー（AED）の「平和・開発のための若いリーダーたち」と呼ばれるプログラムの「平和的手段による紛争解決コース」終了後に、私たち紛争で敵対していたそれぞれの側の若者たちが、「グルジア・アブハジア・ユース・フォーラム」の場でお互いに顔を合わせるようになりました。そして、一緒に遊び、たくさんの共通点を発見し、また文化活動を共催しました。私は、紛争当事者の双方から集まった女の子たちに、私がデザインして作ったセロハン製の服を着せてあげました。その服の美しさに女の子たちは心を和ませました。私たちは一緒に踊りました。美しく平和な世界を創造したのです。復讐はお互いに傷つけるだけだ、と私たちは宣言しました。私は、世界中の紛争当事者たちもここで私たちがしたように、お互いの良心を見せ合って欲しいと思います。

私は「天体ボール」の夢の中で、世界が一つの幸せな輪になり、人々は年齢や肌の色、民族、宗教、言語、肩書などに関係なく、一緒に座って平和や幸せの『世界賛歌』を歌い、「人生は本当に素晴らしい！」「世界は本当に素晴らしい！」と叫ぶ光景を思い描いていました。そうです、きっと私たちはそう叫ぶに違いありません。

私が夢見ているのは、このような世界です。親愛なる皆さんも是非このことを一緒に考えて下さい。

正しい道を選ぼう

(原文は英語)

ヴィクトリア・ボルコヴァ (20 歳)

ウクライナ・リブネ市

キエフ・モイラ学院

世界地図を広げ、ウクライナという小さな国を探して目を泳がせる私…。その国が見つかり、首都も見つかります。ここが私の住んでいるところ。私が未来の希望や夢や計画を胸に、毎日を過ごしている場所です。私の国の首都には 300 万人の人々が暮らしていて、その一人一人が自分なりの夢や希望を持っているのだと思うと胸が高鳴ります。そして気づくのです。世界中の誰もが、世界に暮らす 60 億人みんなが、未来に対する自分なりのヴィジョンや夢を持っているのだと。でも、どうやって、私達みんなの未来のヴィジョンを一つに混合するのでしょうか？そもそも、混合することなどできるのでしょうか？世界はこうした 60 億人全員の未来の混合である一方、たったひとつの未来しか持っていないのです。私達がそれぞれの未来で築き上げる未来は。

人は未来を選ぶことができると私は信じていますし、実際に自分の未来を選びました。私には、とてもシンプルですが、それと同時にとても大切な未来の夢があります。私は生きたい。自分の人生を見逃すのが恐いのです。「自分の人生を見逃すなんて、どうやってできるんだ？」と訊く人もいます。簡単に言えば、人は自分の生き方を模索しているうちに、人生を見逃してしまう可能性もあります。自分の人生を生き損なう危険性を生み出しているものとは、一体なんなのでしょうか？私にとって、それは人々が現代社会を機能させた、そのやり方です。「人々が現代社会を機能させた」と私が言ったのは、私にはそう感じられるからです。現代の社会は、私達がそうなるようにしてきた結果なのです。これは、物事とはこうゆうもの、というような単純なものではありません。絶対に違います。これは、私達みんなが犯している間違いです。私達の間違いはこんな言い回しに表れています。「現実なんてこんなものさ。世の中というのはそういうものさ」そうではありません。それは選択の問題なのです。世界がそうなることを、他のどんな姿でもなくそうなることを、私達が選んだのです。

多国籍企業が世界を支配するべきだと私達が思えば、そうなるし、民族国家の独立には制限が必要だと考えれば、制限ができます。自分達が美しいのか醜いのか、また痩せすぎなのか太りすぎなのかを決めるのはマスメディアだと思っているのなら、それは私達がそんな世界に生きているのが理由なのではなく、私達自身がそんな世界を作り上げたか、もしくは世界がそうなるのを許したことが理由なのです。

知っておかなければならないと私が思うのは、国際通貨基金の世界銀行経由でお金をばら撒いてい

る人や、北大西洋条約機構を通じて派兵する人、東南アジア諸国連合を通じて市場を安定させている人など、「トップダウン」処理を作るような権力の座に就いている人達だけが、世界の未来を選んでいるのではないということです。それは、私達なのです。あなたや私、ウクライナ人やロシア人、中国人、日本人、ベトナム人、アイルランド人…。私達は未来を別のやり方で形作っているだけなのです。上の人間は規則を作り、下の人間はその規則に従うというやり方で。

テレビのチャンネルを替えている私は、血や拳銃やレイプシーンがでてくる映画に2分ほど目を留めます。たった2分間でも、すでに私はそれに関与していることになります。私は「世界の暴力文化」に関与しているのです。人気はあるけれど、それはそれが素晴らしいからではなくて、かっこいいからで、この2つは必ずしも同じとは限りません。あなたが娘に連れられて買い物に行ったら、娘が辛うじてお尻に引っかかるようなジーンズを指差します。もしあなたがそのジーンズを買ったら、あなただけでなく、あなたの娘もこれに関与していることになります。あなたはMTVの「美と魅力の現代文化」に関与していることになるのです。しかし、あなたはそれを悪いこととは思わないかもしれません…そこが重要な点です。私達はみな違う人間で、だからこそ、私達の「未来」も多数あって、みな違うのです。

私はこの世界で生きていきたいと思いますが、上の人間にはなりたくありません。人類は物事や自分達の生活をコントロールしようとする傾向があります。それは、十分な安全を感じられないからでしょう。この安心感の欠如は、時折私達の気を狂わせ、自分達の生活にも不安を感じるようになります。しかし、この安心感不在のジレンマを憶えておくのは大切なことです。私は世界を支配したくはありません。ただそれを楽しみたいだけです。

私達の世界の未来を作るのに、私達はみな、こんなに違っていいのでしょうか？私は自分達みなが、地球上に住む60億人全員が、世界にとって必要な未来を選ぶことができると信じています。正しい道を選ぼう。世界を自由にさせ、自分達の人生を自由にさせることが最も重要なのです。そうは言っても、自分達の生活を管理しないと、なにかを変えたり、なにかを達成したりする努力をしないということではありません。物事に対する自分達の支配を緩める努力をしようということです。世界は自分の面倒くらい自分で見られます。世界に対して私達が十分繊細に対応し、敬意を表し、バランスをとろうと努力すれば、先住民の生活を見てください。彼らの生きている調和の世界を。世界との調和、そして彼ら自身の調和。それは学ぶ価値のあるものです。

世界の未来に私が望むことも、かなりシンプルです。私は世界に真実の姿、ありのままの姿でいてほしい。美しく、色彩に溢れ、芳しく、味わい深くいてほしい。いくつかの国が経験した、金融危機の頃の世界ではなく、冬や春に知られているような世界、戦火の中ではなく、日の出の中にある世界でいてほしい…。その世界では、誰かがついに、土地や資源や権力を求めて戦うことに「もう十分だ」と言い出し、他の誰かがその「もう十分だ」に賛同します。裕福だけれど見せかけだけの人生より、貧乏でも愛のある人生を選ぶ人間がいます。子ども達はもう、玩具やコンピューターゲームを奪い合うことも、飢えに苦しむことも、近所で爆弾や爆発の音がしたと言って、恐怖に震えることもありません。子ども達は笑い、現実の社会から教訓を学んでいくのです。そして、未来の人々には、世界の

現在の姿や、最初に意図されていた姿を見てほしいと思います。私の夢は、人々が、風がどう感じられるのか、雨がどんな音を立てるのかを忘れず、世界の真の姿を意識することを止めないことです。そうすれば、自分達の世界に対して、そのような未来を選ぶことで、私達一人一人が自分達に対して確かな未来を選ぶことになります。そして、それはまた、現実と向かい合うということでもあるのです…。

「たくさん笑うこと。聡明な人々からの尊敬と子ども達からの愛情を得ること。正直な批評家から評価を獲得し、不誠実な友人の裏切りに耐えること。美に感謝すること。他人の一番良いところを見つけること。健康な子どもだろうと、庭の一画だろうと、世界をもう少し良いものにしておくこと。…自分が生きたことで、たとえたった一人でも、誰かの人生が楽になったのだということを知ること。これが成功というものだ！」とエマーソンは言っています。これが生きるということだ—私はそうつけ加えたいと思います。素晴らしい未来のために、あなたが生き、働いたことで、少なくとも一つの人生が楽になったのなら。これが良き指導者、良き大統領、良き国王、良き政府、そして良き人間たるもののあるべき姿です。正しい道を選ぼう。

明日への晩祷

(原文は英語)

ヴェスパー・フェ・マリー・ジャネサ・ラモス (20 歳)

フィリピン共和国ケソン市

フィリピン・マニラ医科大学

私の名前はヴェスパーです。ヴェスパーとは宵の祈りという意味です。記憶する限り、私は、現在の自分に希望を与え続けてくれる未来のためにずっと祈りを捧げてきました。

人それぞれに幼少時代は一人一人の特別な人格を形成するユニークな時期であるのだと感じながら、自分自身、ある子供の幼少時代に嫉妬することなくその子と目と目で向かい合える日が来ますように、と私は祈ります。私自身がそうしてきたように、その子にも自分の選んだ運命を追い求めるあらゆるチャンスがあるのだと理解しつつ、私は期待と喜びを持ってその子を見守ってあげたいのです。これは私自身の平和であり、今までの人生の知恵の合わさったものであり、まだ自分の中に生き続ける子供の姿なのです。私の思い描く未来は私です。私は、現在への不満や過去への後悔の念を抱くことなく、いつまでも人生における愛だけを求めて平和な未来を思い描き続けています。なぜなら、平和は自分自身と共にあるからです。そうです、私の未来へのビジョンは平和なのです。それは、追い求める必要のない家族の温もりや愛、そして幸福感です。私は、自分が平和を手に入れたならば、それを受け取る人に相応しい形に合わせて分け与えてあげられる（実際に平和になるための唯一の方法）ように、と祈ります。街の高層ビルの中にも夜の田舎の空にも平和はあります。友達や動物と仲良くすることも平和であるし、山頂にこもる世捨人も平和を持っています。私は、いのち全体のエネルギーで平和を願っています。しかし、その同じ要素は、あらゆる生き物たちによって共有される素晴らしいギフトとお互いに結び付けられています。

私は医者になりたいと願っています。それは自分で選んだ職業としてだけではなく、私の愛する人々と共に家に居て癒されたその恩恵を一人の人間として人々に分け与えるためです。私は人々が生き続けるために癒されるよう助けてあげたいし、自分が生きること死を恐れなくてもいいことを伝えたいのです。なぜなら、死は自分の残した足跡を消し去ることが出来ないからです。私は、いつの日か、自分自身の死を生きてきたことへの祝福として迎えたいと願っています。しかし、あくまでも死んでいく人々を助けた後での話です。それから、後続く人たちも同じようにして欲しいと願っています。自我自賛しながら、私は特別な平和の感覚を思い出しました。それは、次のような言葉を書いていた時です。「私は自分自身をとて深く愛してきました。今は喜んで自分自身を解き放ちたい気分です。もっともっと深く愛することで、その愛は抱えきれない程大きくなってしまいました。だから、今や

愛は宇宙のものになってしまったのです。」

私はかつて自分自身を恐れていました。それは、自分の自我の強さを知り過ぎていたからです。何でもかんでもすべてを欲しがっていた自分のことを本当に恥ずかしく思いました。私は他の人のことを忘れてしまうのを恐れていました。なぜなら、私自身の奥深いところでは、自分が他人から引き離され独りぼっちでいることは、とても幸せな状態とは呼べないことを知っていたからです。しかし、私は自分が満たされないからと言って、自己中心的でいるのを恐れていたではないでしょうか！ 私は他人から「あなたが宇宙の中心ではないのよ！」と言われるのを、ひどく恐れていました。しかし、私は、自分が自分の宇宙の中心であることに気がつきました。私を感じたり、見たり、考えたりすること、あるいは行うことのすべては私の周りをぐるぐると回転しているのです。私は私なのです。自己中心的であるというのは、ずっといけないことだと決めつけられてきたけれど、そうではありません。私がいい家を欲するということは、自分の家族のためであり、近所の人たちのためであり、この世界に暮らす仲間の住人たちのためでもあります。なぜなら、いい家が悪い環境で建てられないのは、ちょうど健康的な国が病気の蔓延した世界では存続できないのと同じようなものだからです。もし自分自身が幸せでなかったら、私はどうやって他の人を幸せにすることが出来るのでしょうか？あるいは、逆に「私は他の人を幸せにするのが大好きです。なぜなら、それは自分自身が幸せであるということの意味するからです」と言った方が良いかも知れません。これは平和や愛についても当てはまります。自分自身が平和な心を持っているのに、どうして戦争に行きたいなどと思えるのでしょうか？戦争には敵と味方の両者が必要です。どんな平和な人にとっても、戦争では計り知れない程、多くのものを失うのです。もし自分が本当に自分自身を愛しているならば、憎しみを抱こうという気にはならないはずです。なぜなら、憎しみの思いは憎しみを向ける相手以上に自分自身を傷つけるからです。

だからこそ、私はみんなが自分自身を愛するように祈るのです。私たちが本当にそれぞれを自分たち（連帯意識）の中心に据えてはじめて、私たちは大きな絵の中での自分たちの居場所をはっきりと知るのです。そうして、遂に私たちは心から自分たちやすべての人たちのことを思い遣れるのだ、と私は信じています。

これが私の祈りです。しかし、もし皆さんが既に同じ考えだったとしても、私は驚きません。恐らく、皆さんもアッシジの聖フランシスの「神よ、私を神の平和の器とし給えよ・・・」という言葉やネルソン・マンデラの「我らの中にある神の栄光を表さんがために・・・」という願い、あるいは私の祈りを最も的確に表してくれているウィリアム・ブレイクの次の言葉をご存知かも知れません。

「砂粒の中に世界を、野生の花の中に天国を見たいのならば、
掌の中に無限を、
そして1時間の中に永遠を掴むのだ」

結局のところ、未来はすべて私たちのものなのです。

私の未来

(原文は英語)

ヴァネッサ・アン・C・レモキージョ (22 歳)

フィリピン共和国パサイ市

ダバオ大学

若者である私には、未来があると言われてきました。いつか、私はこの世界を担うことになるでしょう。その混乱も、貧困も、裸にされた森や、汚染された海も、その冷淡さ、争い、戦争も一緒に。でも、私はいつかその驚異や奇跡、イルカやパンダ、子ども達、善良さ、平和を求めるようになるでしょう。こうしたものすべてを、私はもうすぐ相続するのです。

私は国家元首でも、君主でも、世界的指導者でもありません。どこかの共和国の大統領でも、政府の上院議員でもありません。しかし、そうした人々の持つヴィジョンに勝るとも劣らない確固たるヴィジョンを私は持っています。何故なら、私は現代の若者の一員であり、未来は私のような者達のものだからです。これは世界を担うという挑戦です。それが自分の家族や国を担うことになると、なるまいと。しかし、私を導き、行動へと駆り立ててくれるヴィジョンがあれば、その未来のために、私は今日にでも仕事を始めることができます。

夢の叶う場所。本当に欲しいもののリスト。私がこの世界やそこに住む人々に望むものは、あまりにたくさんありすぎます。汚染の減少、美しい夕焼け、すべての人に平等な機会、世界的な飢餓の解決、人口の急増、AIDS の治療…リストは長くなるばかり。しかし、最終的に私が思い描くことのできる最高の未来は、世界とその子ども達にとっての平和です。私が熱望する明日、そこでは、国々は決して戦争をしたり、自分を正当化するために真実を歪曲したりしないように努めるでしょう。そして、政府は、どんな武力紛争でも犠牲となるのは誰かの父親や母親、子どもであり、それは単なる偶発事故や巻き添え被害などでは決してないのだということに気付くでしょう。

私の未来、そこでは世界中の人々が、戦争に勝者などおらず、犠牲者がいるだけだと知っています。私の未来、そこでは国々が、手足だけでなく、希望や夢までも粉々に砕いてしまう地雷や武器の製造に終止符を打つのです。環境への脅威に対応するため、すべての国がひとつに団結しているところが心に浮かびます。私の未来、そこでは、富める者も貧しき者も、先進国もそうでない国も、みんなが同じひとつの地球を共有することを受け入れています。明日、人々が他の文化や信念、信仰を理解しようと努力し、人と違うからとか、見慣れていないからという理由で、他の人を恐れたりしなくなることを私は望んでいます。

子ども達には、違いを評価、尊重することを学び、この大切な教訓を生涯忘れずにいてほしいと思

います。私の未来では、すべての子ども達が祈りを知っていて、人生の荒波の中でそれを自分の礎とできるよう、私は祈っています。一体いくつのサッカーボールを縫わなければならないのか、いくつの花輪を売らなくてはならないのか、そんなことを心配することなく、子ども達が夢を見られる時がくることを、私は夢見ています。私の未来では、文字が読めたり、文章が書けたり、歌がうたえたり、ゲームができたり、そんなことで子ども達が笑うのを見たいのです。私の未来、そこでは、子ども達は遠慮なく、ただの子どもでいられるのです。

平和が、代数や化学と同じように、学校で教わる科目となる日がきてほしいと思います。永遠の平和への長く厳しい道のりは、それだけでもひとつの科学だからです。それも世界最高の思想家や偉大な指導者ですら、時には理解できなかった科学です。若者である私には、こうした夢すべてに加え、さらにまだたくさんの夢があります。その多くは、まだ私には手の届かないところにありますが、こうした夢のため、私は前途に控えている学習の年月、忍耐力と偏見のない心を持ってはなりません。この若さを、小さな希望を大きな現実に変える努力をするために使わずして、一体他にどんな使い道があるでしょう？ 私は人類のほんの一点に過ぎないけれど、強い意志、固い決意、そして多くの祈りで、なんらかの変化をもたらすことくらいできるかもしれません。

今、私は自分の国の若者達とともに働いています。私達は一緒に、自分のためだけでなく、自分の地域社会のために夢を見るよう、若者達に働きかけています。若さが世界を私達の持つ最高の夢に値する場所にしていく、その素晴らしい方法を発見する毎日です。例えばそれは、貧しい人々に無料で治療を施している若い理学療法士。またある時は、道端で子ども達に AIDS の危険性を教えている十代のカウンセラー。そして、またある時は、海岸線の清掃やマングローブの植林に、ひと夏を捧げた自然愛好家のグループ。責任を担い、自分の地域社会に奉仕するよう努めることで、こうした若者達は未来を共同で築いていっているのです。

若者である私には、未来があると言われてきました。それには全面的に賛成するしかないでしょう。何故なら、明日というのは「いつ」ではなく「どうやって」というものだからです。未来は時間の問題ではありません。ヴィジョンの問題なのです。